



三島 喜吉 議員 … 3 件の一般質問

地域防災計画の現状は

町長：旧東陵中学校校舎の活用も考えている

三島 俱知安地方は、地震・風水害・豪雪災害が想定される。

災害は、いつ起きても不思議ではないが、普段の備えが住民の命と財産を守る大変重要なことだと感じている。

①地域防災センターとしての旧東陵中学校校舎の活用構想について町長の考えは。

②平成22年3月に、俱知安町地域防災計画が策定されたが、尻別川の水害対策防災訓練は、今までやったことがないと思う。その対策について町長の考えを伺う。

③豪雪地俱知安、年に何回か地吹雪、暴風雪で、各幹線の通行止め規制が行われている。

ホワイトアウト対策についての避難所や今後の交通規制をどうするのか町長の考えを伺う。

町長 ①防災拠点施設等の整備として役場庁舎は、防災活動拠点として使用できない可能性が高いこと、代替として使用可能な町有施設がないことから、旧東陵中

学校舎を活用することも考えている。

活用内容は、災害時の活動拠点となるよう備蓄倉庫や資機材庫等の機能を備え、平時には一般町民への貸し出し、自治会等の訓練や研修、図上訓練や宿泊体験型避難訓練、防災訓練等を行うことができる施設として考えている。

また、避難所機能を強化するための施設整備としては、トイレ・シャワー等、避難収容室や備蓄倉庫の改造・改築等、避難者が生活するための必要な施設整備を検討している。

②現在、町防災計画の全体の見直しを進めている。その中で、尻別川と俱登山川が氾濫をした場合、浸水する想定地域にある避難所の指定を見直している。今後は、図上訓練や実動訓練をしていきたいと考えている。

③ホワイトアウト対策だが、天候が悪化、また悪化が予想された場合は、防災行政無線等で道路の通行止めや避難所開設等の情報を提供する。

地域公共交通の実情と課題

三島 じゃがりん号が5年経過した中で、地域公共交通の現状を伺う。

①現在の2系統から3系統への増便は。

②農村部への乗り入れはデマンドでもいいと感じているが、そういう対応ができないか。

③9名定員よりもう少し大きなバスの考えは。

④郊外大型店までの延伸が実現可能かどうか

町長 公共交通の現状だが、それぞれの課題が単独で存在するものではなく、赤字バス路線とじゃがりん号、赤字バス路線とスクールバスなど、それぞれが相互関係を持つ課題であるため、本町の地域公共交通を全体的にとらえ、課題整理と解決を図っていく。

①増便やルート変更についての検討は、庁内はもとより、関係機関や地域公共交通活性化協議会の中で検討を図っていく。

②利用者の乗車希望日時を受け付け、対応する仕組みが必要となるため、民間業者の協力が不可欠となる。

③中型バスでは取り回しが不便な箇所もあり、定時運行に支障を来すため、マイクロバスでの運行がベストではないが、ベターであると考えている。

三島 本町が「スキーの町」宣言をして以来、子どもから大人まで親しめるスポーツとして普及振興されてきている。

そういう中で、俱知安の子どもたちが羽ばたける環境づくりをしてあげることが必要だと思うが町長の考えを伺う。

町長 現在、世界レベルの選手として、スキー・フリースタイルモーグルの競技で活躍する選手が、俱知安高校に在学中であることは承知している。

また、その選手に対して、俱知安高校の同窓会である白樺会での支援の動きがあることも伺っている。

「スキーの町」宣言をしている本町としても、世界の舞台で活躍するスキー選手に対して、支援を行うことはもちろん大切なことであり、また、このことは将来のオリンピックやワールドカップを目指す選手をさらに養成することにもつながっていくことにもなるので、今後、何らかの支援策を策定し、積極的に取り進めたいと考えている。

現在、教育委員会や関係諸団体と協議の上、他市町村の例も参考にしながら、具体的な支援策の検討を始めているが、その財源として可能であれば、ふるさと応援寄附金をもとにスポーツ振興基金を創設し、その中から支援策を探っていくことも、一つの方法ではないかと考える。

また、その選手に対して、俱知安高校の同窓会である白樺会での支援の動きがあることも伺っている。

また、その選手に対して、俱知安高校の同窓会である白樺会での支援の動きがあることも伺っている。